

全国地質調査業協会連合会 ジオ・ラボ ネットワーク事務局：北海道土質試験協同組合

- ・北海道土質試験協同組合
- ・協同組合土質屋北陸
- ・関東土質試験協同組合
- ・中部土質試験協同組合
- ・協同組合関西地盤環境研究センター
- ・協同組合岡山県土質試験センター
- ・協同組合島根県土質技術研究センター
- ・協同組合広島県土質試験センター
- ・宮崎県地質調査業協同組合

なお、記事に関するお問い合わせは各組合へお願いいたします。

ジオ・ラボネットワーク事務局

<http://www.geolab-net.com/>

☆ジオ・ラボネットワーク第6回技術研修会を開催

全国の土質試験協同組合の職員が集い、技術研修会を7月19日(水)・20日(木)、大阪キャッスルホテルにて開催しました。研修内容は以下の通りです。

- (1) 土質試験管理者養成講座
 - ①土質試験管理者の認定制度 ②技術者倫理 ③土質試験業務のマネージメント
- (2) 特別講演 『究極の室内透水試験法』と題し、岡山県土質試験センター副理事長 西垣誠氏
<供試体飽和度を増加させながら実施する加圧型変水位透水試験についての講義>
- (3) 材料試験に関する話題提供 全国各組合職員による技術報告・検討会

☆第28回全地連「技術フォーラム2017」旭川に参加

9月14日(木)、15日(金)2日間、北海道旭川市のグランドホテルで開催された全地連「技術フォーラム2017」旭川にて、ジオ・ラボネットワークとして技術発表そして展示ブースを出展いたしました。

- ①藤村亮 (関西地盤環境研究センター) 「粒度試験における浮ひょう測定方法の違いについて」
- ②岩田暁 (中部土質試験協同組合) 「中間土の締固め試験の準備方法に関する研究 (その2)」
- ③高橋孝輔 (北海道土質試験協同組合) 「凍上性評価における細粒分含有率の影響について」
- ④金津正子 (関西地盤環境研究センター) 「粘性土における三軸圧縮試験と一面せん断の比較」
- ⑤服部健太 (関西地盤環境研究センター) 「盛土材料の供試体密度と三軸圧縮強さの関係(その2)」
- ⑥倉ヶ谷彩地 (関東土質試験協同組合) 「中空ねじり試験に用いる供試体の縦横比がせん断剛性率にどのような影響をもたらすか」

☆ジオ・ラボネットワーク大容量データ転送システムの紹介

ジオ・ラボネットワークでは、組合からお客様へメール添付で送付できないような大容量のデータを安全・確実にお渡しできる専用サーバーを介した独自の『データ転送システム』を活用しております。このシステムが格納されているサーバーは、暗号化されたキーと一緒に送っているため、他者がアクセスしてもダウンロードできないシステムになっており、平成25年から稼働させておりますが、これまで障害・事故等を起こしたことはありません。仕様は以下の通りです。

◇基本仕様

- ・同時に5人に送ることができ、一度に送られるファイル数は5ファイル、合計1GB。
- ・データはサーバーに1週間保存し、8日目にログが自動消去される。
- ・アップロード時にシステムから相手に自動メールが送信される。
- ・アップロード及びダウンロード時のメール通知機能あり。

インターネットを通してデータを送るシステムもありますが、いずれにしても大事なデータを他者に無防備に預けてしまい万が一にでも情報漏洩が生じた場合は、企業の存続にかかわる事態になりかねません。

本システムは、ジオ・ラボネットワーク自体で運用しており、セキュリティの面からもしっかりとしたシステムとなっておりますので、ジオ・ラボネットワークを安心してご利用してください。

(文責：折笠 章)

関東土質試験協同組合

mail to : uketsuke@src.or.jp

◇第 28 回全地連「技術フォーラム 2017」旭川に参加して◇

平成 29 年 9 月 14 日～9 月 15 日に、旭川グランドホテルで行われた「技術フォーラム 2017」に参加しました。当組合からは試験課の倉ヶ谷職員が中空ねじり試験について発表をし、良い経験をしたことでしょう。昨年に続き懇親会の中で、地元の方が災害（今回は十勝豪雨）について話されておりました。改めて災害の多発する脆弱な国土に住む、私たちにとっての地質調査の重要性を感じました。2 日目の朝、そろそろ今日の準備をしようかという時にJアラートが鳴り、会場に着くと北朝鮮ミサイル発射の話で持ち切り、襟裳岬はるか沖に着弾、流石に焦りました。

ジオ・ラボネットワークの皆様お疲れ様でした。来年は、香川県高松市が会場です。当組合でもまた若手の参加を考えておりますので、よろしく願いいたします。

(文責：石倉 仁士)



中部土質試験協同組合

mail to : info@geolabo-chubu.com

● 最近の学・協会における発表について

最近の学・協会における発表者・発表題名をリストアップしました。職員の発表は、日頃の実務における試験に伴う疑問等を、一歩進めて、追加試験などを行ってまとめた報告が主体となっています。

これらの論文・報文は、組員・準組員様にとっても、同様な業務を実施する上で、調査計画時に参考資料となると考えています。

今後も、実務に併せて種々の追加試験などを実施しながら、地盤材料試験における「試験レベルの深耕」を図っていきたいと考えています。

中部土質試験協同組合における最近の発表

主催：地盤工学会，全地連，中部地質調査業協会協会	発表日	氏 名	発 表 題 名
第52回地盤工学研究発表会 (含：地盤品質判定士協議会)	H29年7月12日	久保 裕一	細粒分が卓越した堤防土の浸透耐性評価に及ぼすサンプリング法と凍結履歴の影響
	H29年7月13日	坪田 邦治	地形、地質、地歴などからみるトラブルが生じやすい中部地域の地盤
ジオ・ラボネットワーク 第6回技術研修会	H29年7月19日	伊藤 康弘	供試体作成時の含水比の違いによる透水係数への影響
平成29年度(第72回) 土木学会全国大会	H29年9月11日	久保 裕一	吸水軟化試験による砂質土の浸透耐性の評価
全地連フォーラム旭川	H29年9月15日	岩田 暁	中間土の締固め試験の準備方法に関する研究(その2)
中部地質調査業協会 中部ミニフォーラム	H29年10月6日	竹内 啓介	供試体作製時の含水比が透水係数と密度の分布に及ぼす影響
		坪田 邦治	地盤調査の技術変遷の40年 -関連した現場における体験を主として-

(文責：坪田邦治)

協同組合土質屋北陸

mail to : info@doshitsuya.or.jp

働き方改革の一環として「メンタルヘルスセミナー」を開催。

不眠症はすぐに相談を

メンタルヘルスセミナー開く
土質屋北陸

協同組合土質屋北陸（市山勉理事長）のメンタルヘルスセミナーは25日、企業の管理職ら約10人が参加して金沢市の金沢東急ホテルで開き、健康心理士（日本健康心理学会認定）の八尾稔啓氏が「ストレスを上手に活用する予防的メンタルマネジメントの基本」と題して講演した。写真。

八尾氏は「多くの企業人が心を病んでいるが、男性の場合はほとんど心療内科へ来ない」と指摘した。また、うつ自殺予防キャンペーンのポスターに使われたスローガン「パパ、眠れますか？」を引き合いに出し、「不眠症になったらまず心療内科に相談してほしい」と強調した。さらに八尾氏は「自分の脳がワクワクするキーワードを即座に3つ挙げられませんか？」と問いかけ、できないなら「心を病んでいる可能性が高い」と注意を促した。

伊丹氏はドローンによる災害現場の撮影について開口一番、「災害現場の状況把握は重要。それによって災害対応のメニューも変わってくる」とし、「ますます期待が高まる分野である」と付け加えた。

さらに、火山や海洋上で起こっている状況は有人飛行（機器）や衛星でも把握は可能だが、多用



(文責：森川和重)

北海道土質試験協同組合

mail to : hsrc@src.or.jp

●三軸圧縮試験の供試体サイズ

土の三軸圧縮試験を実施する場合は、対象土の最大粒径に応じてせん断特性に影響を与えない適切な供試体寸法を選択しなければなりません。「地盤材料試験の方法と解説」では、土の三軸圧縮試験の供試体作製・設置方法（JGS0520）基準の場合、試料の最大粒径は 20mm程度以下、粗粒土の三軸圧縮試験の供試体作製・設置方法（JGS0530）の場合、試料の最大粒径は 60mm程度以下を標準とされています。

当組合では、実施できる三軸圧縮試験の供試体サイズは、各種サンプラーに合わせたサイズで実施できるようになっております。

(文責：平 伸明)

- <三軸圧縮試験供試体サイズ>
- φ 35 mm、φ 50 mm、φ 55 mm、φ 75 mm、φ 83 mm
 - φ 90 mm、φ 100 mm、
 - φ 150 mm (試料最大粒径 30 mm程度)
 - φ 200 mm (試料最大粒径 40 mm程度)



三軸圧縮試験装置 (φ200mm用)